

町勢発展の功績を称えて

故岩本直さんに正六位

4月17日、役場庁議室において、平成27年2月21日に87歳で亡くなられた元宮原町議会議員の岩本直さんへの特旨叙位(正六位)伝達式が行われました。

直さんは、昭和47年から8期32年の永きにわたり在職。5年間の議会副議長も務められ、町の発展に多大な貢献をされた功績が認められての受章となりました。

位記を受けた親族の剛さんは「父は広く地域の皆さまに支えていただき、長く議会議員を続けることができたと思います。私も家族も町のために役に立てるよう頑張っていきたいと思っています」と述べられました。



▲特旨叙位を受け取られた親族の岩本剛さん

知識と経験を海外へ

シニア海外ボランティア表敬訪問

4月17日、国際協力機構(JICA)シニア海外ボランティアとして派遣され1月に帰国された、中村博典さん(桜ヶ丘)が藤本町長を表敬訪問し、活動を報告されました。

中村さんは、平成24年1月から3年間、開発途上国である中米のホンジュラス共和国とエルサルバドル共和国において、現地の職業訓練校や専門学校で自動車整備の指導に当たられました。

長年、海外ボランティア活動に活躍されており、早くも今回の派遣に意欲を示されるなど、より一層の活躍が期待されます。



▲活動を終え帰国された中村博典さん

ヘラブナ愛好家が腕を競う

いちご杯九州ヘラブナ釣り大会

4月19日、不知火干拓貯水池(下池)において、第10回いちご杯九州ヘラブナ釣り大会が行われ、町内外から100人の参加がありました。

この日は、あいにくの雨となりましたが、下池にはヘラブナ愛好家の竿がずらりと並び、40センチを超す大物や総重量20キ近くへのヘラブナを釣り上げるなど、参加者からは例年に負けない腕前を披露してくれました。

また競技終了後は、参加者らに特産の「和鹿島いちご」がプレゼントされた他、インストラクターによる餌づくり講習会や、お楽しみ抽選会が行われ、盛り上がりを見せていました。



▲見事なヘラブナをゲット!

平和の誓い新たに

氷川町戦没者追悼式

4月21日、文化センター講堂において、氷川町戦没者追悼式が行われ、遺族など約140人が出席しました。

式典では、遺族代表の北永昭子さん(北野津)の献灯に続き、出席者全員で黙とうを捧げ、戦没者に平和を誓いました。

また、氷川町遺族連合会支部代表の古閑征男さん(中大野)は、「生涯を国のために捧げた人々が今日の日本の礎となっていることを忘れてはなりません。大戦から学んだ教訓を深く心に刻み、平和の尊さ、命の尊さを次の時代に語り伝えていく事は私たちの重要な任務であると思います」と追悼の言葉を述べられました。



▲追悼の言葉を述べる古閑征男さん

子どもを育てて優しい心を

竜北東小学校で花育活動

4月27日、竜北東小学校において、1、2年生の児童58人がヒマワリの種植えを行いました。

これは、花き協会八代支部が主催したもので、花と緑に親しみ、育てることで、優しさや美しさを感じる心を育み、地域とのつながりを深めることを目的としています。

児童たちは先生や老人会の皆さんから植え方を教わりながら、種を一つずつ丁寧に植えました。

6月初めごろに、オレンジと黒の2色のヒマワリが咲く見込みで、種植えを終えた児童は「指が汚れたけど楽しかった。たくさん咲くのが楽しみ」と話してくれました。



▲おじいちゃん、おばあちゃんに教わって

次代を担う氷川の子を祝福

すこやか赤ちゃん出産祝金第1号

5月1日、役場庁議室において、4月9日に第2子となる颯斗(はやと)くんが誕生された上村一宏さん・真由美さん夫婦(若洲)に「すこやか赤ちゃん出産祝金」の第1号となる支給が行われました。

すこやか赤ちゃん出産祝金は今年度から開始した事業で、町内に引き続き居住し、お子さんを育てられる人に支給される祝金です。

藤本町長は「少子化時代に多くの人に子どもを産み育ててほしい。氷川町にずっと住まれることを願っています」とあいさつ。祝金を受け取った一宏さんは「子どものために大切に使いまします」と話されました。



▲健やかな成長を願って

事故ゼロを目指して

春の交通安全運動キャンペーン

5月11日、国道3号線の道の駅「竜北」前において、老人クラブ連合会、交通安全協会、交通指導員、交通安全母の会の皆さんによる、春の全国交通安全運動に伴うキャンペーン活動が行われました。

キャンペーン活動では、約100台のドライバークラッシュ交通安全グッズと町特産の「和鹿島いちご」をプレゼントし、交通安全を呼びかけました。

老人クラブ連合会の小野一成会長に話を伺うと「交通事故の多くは高齢者が被害者。高齢者は自助の意識を持ち、ドライバークラッシュは自らの運転技術を過信せず、交通安全の意識を持つてほしい」と話されました。



▲和鹿島いちごのプレゼントに笑顔

伝統の畳を知って

宮原小児童に畳表座布団贈呈

5月14日、宮原小学校において、新入生への入学記念として、宮原農火の会が「いす畳表座布団」を贈呈しました。

これは毎年行われているもので、会員の草生産者が育てた「い草」が使用されています。

い草の香る涼しげな座布団が赤星直裕会長(原田)、木村高雄さん(今)から児童代表の上田夏揮くん(町)、源歩弥さん(有佐)に手渡されると「ありがとうございます。大切に使いまします」と笑顔を見せてくれました。

赤星さんは「畳表座布団をきっかけに、畳に触れる機会を大事にしてほしい」と話されました。



▲畳表座布団で勉強頑張ります!